

生物多様性の豊かな森の再生へ

— ITOCHU Group : Forest for Orang-utan

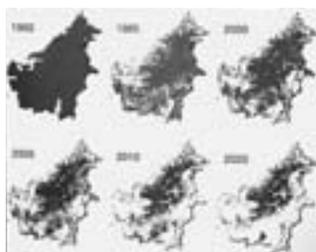
伊藤忠商事(株) 総務部 CSR 推進室
社会貢献担当課長 鈴木祥一

伊藤忠商事の経営の原点には、近江出身の初代伊藤忠兵衛が実践してきた、近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の経営思想がある。これは現代 CSR の源流とも言える考えであり、当社の事業活動が社会に認められ、世界の国々や社会に貢献できているかということ常を意識しながら事業を進めてきた。

2008 年、当社は創業 150 周年記念社会貢献事業の 1 つとして、ボルネオ島の熱帯林再生および生態系保存活動への支援を決定した。この検討に際しては社員の希望が多かった社会貢献案件であり、「単にお金を出すだけではなく、社員参加型」、「伊藤忠グループ全体として進められる」という方針に基づき、多くのアイデアの中から決定した。

絶滅の危機、ボルネオの森

東南アジア、南米などにおける熱帯林の減少・劣化は地球温暖化の進行、生態系の破壊をもたらし、地球規模の環境問題となっている。国連も 2010 年を「生物多様性年」とし、生物多様性損失の速度を顕著に低下させるよう加盟国に呼びかけている。



©WWF Malaysia
減少するボルネオ島の森林を示す
WWF パネル(濃い部分が森林)

自然保護団体である WWF においても熱帯林再生活動に注力していることから、当社としてもこの問題解決に少しでも貢献したいという思いから

支援を決定した。

ボルネオ島はマレーシア・インドネシア・ブルネイの 3 カ国にまたがる熱帯林地域で、日本の倍近くの面積があるが、乱伐や過度の農場開発により森林が傷ついていった。特に農業開発となるとすべての森林を伐採してしまうことになる。したがって森林破壊へのダメージはより大きく、生物多様性の宝庫と言われるボルネオの森にすむ野生動物への影響も甚大である。その象徴ともいえるべきオランウータンは、スマトラとこのボルネオにしかないが、この 100 年間で 92% が減ってしまい、絶滅危惧種に認定されるまでの状態に追い込まれている。そのオランウータンの森を再生しようということがこのプログラムの目的である。今ならまだ間に合うのだ。

政府、NGO、民間が一体で活動

2009 年 10 月、WWF がイニシアチブをとり、インドネシア、マレーシア、ブルネイ政府が協力し、「ハート・オブ・ボルネオの森林生態系と緑の回廊の機能回復」を目的としたプロジェクトが



植林に参加したボランティアの皆さん

スタートした。「ハート・オブ・ボルネオ」は24万km²（日本の3分の2、ボルネオの3分の1）に及ぶ広大な地域である。このプロジェクトは、生態系を単に守るのではなく、人間の生活を守りながら共存できるようにしようとする活動で、伊藤忠グループは5年間の資金支援を約束し、現地政府・NGO・民間の三者一体の活動となった。

〈WWF ボルネオ・プログラムのリーダーであるアダム・トマセックは、「こうした活動資金は、重要な生息地を再生させ、オランウータンが今後とも生存していく可能性を確かなものにするために必要不可欠である。（中略）伊藤忠グループからの支援は、ハート・オブ・ボルネオに日本企業が関心をもっていることの明快な示しである。（中略）政府と民間部門のあいだにパートナーシップが育ちつつある好例」と述べた。※ WWF ジャパンHP より〉

植林、野生動物との遭遇

昨年11月、第1回目の「ボルネオ島植林体験ツアー」を実施した。参加者は16名のボランティアと事務局3名（筆者、WWFのメンバーなど）の総勢19名。20代から60代、男女各8名の参加者は、東京、大阪、那覇、ロンドンから現地コタキナバルに集結した。

現地では、最初にコタキナバルのWWF事務所でも森林再生の重要性についてのレクチャーを受けた後、植林地に近いラハダトゥへ小型機で移動した。翌日の3日目はいよいよ植林体験の本番、6台の4輪駆動車で現地に向かった。植林サイトまでは所要90分、30分を過ぎれば後は未舗装のガタガタ道だ。そしてようやく伊藤忠が担当する967haの一角に到着。揺られ続けた全身をほぐし



高温多湿で汗まみれの植林作業



ボートで野生動物の観察へ



遭遇したオランウータンなどの野生動物たち

ながら植林の準備に取りかかる。服装は長そでにヘルメットとヒルよけ靴下の重装備。高温多湿の熱帯で全員汗まみれになりながらも慣れない植林作業に取り組む。作業が終了した時には「やったー」の声も上がり、彼らの思いっきりの笑顔は達成感でいっぱいだ。私も自然に笑顔になった。

その日の夕方と翌日は、野生動物観察のリバー・クルーズ。驚くほどの間近で次々と野生動物に遭遇し、この動物を守りたいという気持ちがますます強くなった。「森林再生プログラムは、ボルネオ島の森林伐採が原因で帰る場所を奪われたオランウータンや、その他動物のための自然の生息環境を整備・維持する上で、非常に重要」（ロンドンから参加のマギーさん）。これは参加者共通の思いで、自然を大切にしないでという思いが強くなったと多くの参加者から聞いている。

*

現地では今もWWFと森林局が植林を続けてくれている。当社のこの体験ツアーは年2回の予定で実施するが、パネル展の開催などを通じてグループ全体の意識を盛り上げ、参加者のみならず全員に環境や野生動物保護への共感の輪を広げていきたい。そしてオランウータンが安心して住める森林の再生につながることを願っている。 ■

◆伊藤忠商事の社会貢献活動

<http://www.itochu.co.jp/ja/csr/social/>